

# 授業動画記録を活用したあん摩実技の指導に関する検討

○末永多香光  
(大分県立盲学校)  
KEY WORDS: 保健医療・理療, 動画記録, 主体的学習態度

衛藤 裕司  
(大分大学教育学部)

## 1. 問題と目的

特別支援学校（視覚障害）に設置されているあん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師養成課程では、自立教科「理療」・「保健医療」が指導されている。教科内科目のあん摩実技では、授業者の見本を見せ、その内容を模倣して習熟度を向上させる指導法が一般的である。この指導方法は、確実に習熟度が向上するが、生徒が「受け身」的になりやすいことが課題である。そこで、本実践では生徒の主体性を引き出すため、あん摩実技授業動画記録を使用した指導方法について学習指導案の観点別評価の観点から検討した。

## 2. 方法

1)対象者：A 学校専攻科保健医療科 1 年生徒 1 名を対象とした。当該生徒は、動画記録を使用した指導が可能な視機能を有している。なお、本研究実施に際し、対象者に研究趣旨とプライバシー保護を説明し承諾を得るとともに、所属学校長の承認を得た。

### 2)授業動画記録

(1)動画内容：記録した動画は動画 1 と動画 2 の 2 種類であった。動画 1 は、対象者が参加した 6 月のあん摩実技授業の様子あり、内容は、クラスメイトに対して、畳の上で肩上部に対してあん摩実技を行っている様子で、記録時間は約 2 分であった。動画 2 は、動画 1 と同様の内容であるが、3 月に記録したものであり、記録時間は約 2 分であった。

(2)動画記録方法および使用機材：2 つの動画の撮影場所は授業を行われる実習室であった。撮影は、タブレット端末 (iPadPro11 インチ：Apple 社製)を施術者から約 1m 離れた位置に立ち、記録者が機器を手に持ちを行った

3)手続き：視聴方法は、2 つの方法を用いた。

(1)方法①:動画 1 を視聴し、その後口頭により 15 分以内で、自由に授業に関する内容を列挙した。次いで上記のタブレット端末上で、「Fun!Lesson(ISAC 社製)」を使用し、動画 1 と動画 2 を並列に提示した動画を視聴し、15 分以内で、自由に内容を列挙した。

(2)方法②:方法①の動画視聴時に授業者が、視聴ポイントとして、母指揉捏法実施時の母指の置き方、手首から先の動かし方、圧のかけ方、リズムについて口頭で説明した後、15 分以内で、自由に内容を列挙した。

### 4)結果の分析方法

動画視聴時の対象者より聴取した内容をコメントの総数、コメントに要した時間、コメントの傾向について整理した。コメントの傾向の整理にあたっては、特別支援学校学習指導要領高等部学習指導要領(文部科学省,2019)が示す観点別評価（知識・技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度）を参考にした。

## 3. 結果

動画視聴で得られた内容を整理した結果を表 1、表 2 に示した。コメント数、コメントに要する時間ともに授業者介入後に増加した。また、自由回答、授業者介入後ともに 1 画面ずつ視聴の方が、コメント数が多かった。一方、学習指導要領に示す観点別評価との関係では、知識・技能に関する内容が自由回答、授業者介入後ともに最多であった。

表 1 動画視聴後のコメント総数、時間

自由回答	1 画面ずつ 視聴	2 画面同時 に視聴	その他（感想等）
コメント総数	7	2	5
コメント終了に 要した時間	5 分 24 秒	2 分 30 秒	4 分 45 秒
授業者視聴ポイント 指摘後回答	1 画面ずつ 視聴	2 画面同時 視聴	その他（感想等）
コメント総数	11	9	1
コメント終了に 要した時間	5 分 10 秒	4 分 32 秒	1 分

表 2 コメントの傾向

自由回答	1 画面ずつ 視聴	2 画面同時 視聴	その他（感想等）
知識・技能	7	2	0
思考・判断・表現	0	0	0
主体的学習態度	0	0	1
その他	0	0	4
授業者ポイント指摘 後回答	1 画面ずつ 視聴	2 画面同時 視聴	その他（感想等）
知識・技能	11	9	0
思考・判断・表現	0	0	0
主体的に学習態度	0	0	0
その他	0	0	1

## 4. 考察

本研究では、動画記録を活用したあん摩実技の指導法について検討を行った。その結果、動画視聴時に授業者が視聴ポイントを指示することで、生徒から得られるコメント数が増加していた。そして、動画の表示方法については、視聴ポイント指示後は、2 画面同時視聴のコメント数が増加していた。これらのことから、視聴方法に関わらず、動画視聴時に授業者が適切な視聴ポイントを提示することが生徒のコメントを引き出す手段として重要であると考えられる。一方、観点別評価の観点から、知識・技能に傾倒したコメントが多くを占めた。授業者の指導が知識・技能に傾倒していたことが影響したものと思われる。この点は、授業者が適切に 3 つの観点を踏まえた視聴ポイントを提示することにより、バランスよく生徒のコメントを引き出せると考えられる。

あん摩実技の指導法・学習評価については、令和 3 (2021) 年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）（奨励研究）課題番号 21H03999 で継続して検討を進める予定である。

(SUENAGA Takamitsu, ETO Hiroshi)